

七里ガ浜ホーム恒例！風鈴の季節になりました！

今年もご利用者手作りの風鈴の音が、七里ガ浜ホーム玄関に涼し気に鳴り響いています。夏の風物詩である風鈴ですが、七里ガ浜ホームの風鈴はご利用者の手作りです。



日本人であれば誰でも一度は見たり、その音を聞いた事のある風鈴ですが、起源は中国「唐」の時代
今から1400年も昔の西暦618年頃です。

唐では、占風鐸（せんふうたく）という占いがありました。これは自然の風から様々な情報を読み取り、物事の吉凶を占う方法です。



占い師は吊るされた風鐸から風の向きを知り、音の鳴り方を判断し、物事を占っていたようです。風鐸は、仏教とともに日本に伝わったのではないかとされており、おそらく仏教建築文化が伝わった、飛鳥・奈良・平安時代あたりであろうと言われています。





風鐸の音が聞こえる範囲は「聖域」とされ、その場所では災い起きないとされてきました。そのために、お寺の軒の四隅に吊るされるようになったのです。寺社の軒に吊るされているのを、見たことあるのではないのでしょうか。



風鈴は、現在ではガラスや陶器が中心となっていますが最初は鐸（青銅）が使われていたそうです。青銅は高価な為、貴族だけが持っていました。

今よく目にするガラス製の風鈴が作られ始めたのは江戸時代中期といわれています。ガラスの製法がオランダから伝わってきたのがキッカケです。明治時代に入るとガラスの値段も安くなり、やっと庶民が風鈴を手に入れられるようになったそうです。

七里ガ浜ホームでは、毎年、七夕の前にご利用者手作り風鈴を、職員でかざりつけます。この風鈴の音がチリリンと可愛く、涼し気で、とても心地よいのです。

風鈴の音は聴く人の心に安らぎを与えてくれるようです。ご利用者手作りの風鈴、これからも大切にしていきたいものです。

